



Asian Productivity Organization “The APO in the News”

Name of publication: 石鹼日用品新報 (8 January 2014, Japan)

Page no.: 16

| | | |
|----------------|--|---|
| <p>工場訪問の様子</p> | | <p>国際機関 APO (アジア生産性機構) の「緑の生産性視察団」は昨年12月11日、エスケー1石鹼川口工場(埼玉県川口市)を訪問した。</p> <p>アジア生産性機構は、加盟諸国の「相互協力」により、生産性向上を通じてアジア太平洋地域の社会経済を発展させ、この地域の人々の生活水準を向上させることを目的とした国際機関。国連アジア太平洋経済社会委員会 (ESCAP) のアジア・太平洋加盟国である20の</p> |
| <p>工場訪問の様子</p> | <p>また、同社が CSR 活動の一環として行っている出前授業の「環境学習」の説明後には、参加者全員から大きな拍手が起ることもあった。「石鹼を買わない小学生になぜ環境の授業をするのか」という素朴な疑問も挙がった。</p> <p>さらに、エスケー1石鹼担当者が、同社が開発した世界初の「食廃油を使ったリサイクル石けんシステム」を解説。日本人が世界に伝えていきたい「もったいない精神」がビジネスとして確立していることを紹介した。</p> <p>なお、同システムは、国内で高く評価され、2012年の日本環境協会エコアワード銀賞をはじめ、数々のアワードを受賞し、100組織程度の地方自治体、企業、外食産業、ホテルや全国の小学校で採用されている。</p> <p>興境に配慮したモノづくりについて倉橋公二エスケー1石鹼社長は、次のように述べている。</p> | <p>エスケー1石鹼川口工場を訪問した。同社が「緑の生産性視察団」によるエスケー1石鹼川口工場の訪問は、そのプログラムの一環によるもの。環境に配慮したモノづくりに取り組み中小企業として同社が選ばれた。視察団に参加したのは、インド、インドネシア、マレーシア、モンゴル、パキスタン、フィリピン、スリランカ、台湾、タイ、ベトナムの10カ国・地域の合計17名の経営者、環境関係者及び企業施設担当者。</p> <p>川口工場では、セミナーと工場見学が行われ、視察団メンバーから、生産性の向上と環境への配慮の両立に関して質問が多く寄せられた。</p> |
| <p>工場訪問の様子</p> | <p>環境・安全・安心である。石鹼を作る仕事をしていると原料のヤシ油採取のためヤシプランテーションによる森林伐採問題や排水による河川の汚染など環境問題が常に背中合わせである。しかし、企業や個人の努力で悪化を防げないかと考え、当社ではリサイクル石鹼事業に取り組んでいる。</p> <p>欧州や日本などの環境先進国において、環境に配慮していないブランドやメーカーはマーケットの土俵に立つことはできない。それとは逆に、環境経営によりモノづくりを行う企業は永続できると確信している。</p> <p>日本を含む多くの国では、経済が大きく伸び生産性上がるのと並行して環境破壊の問題に直面してきた。その反省を活かして、これからも多くの人々に日本の『もったいないスピリット』を伝えていきたい。」</p> | <p>「当社のモットーは</p> |